

第5回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧下さい。

2005年12月23日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

あくまで前提条件に沿って「なぜ」を繰り返そう

「なぜ」を考えていく時によくあることは、発生している事象についての前提条件をあまり考えないで、思いつくまま要因を並べてしまうことです。

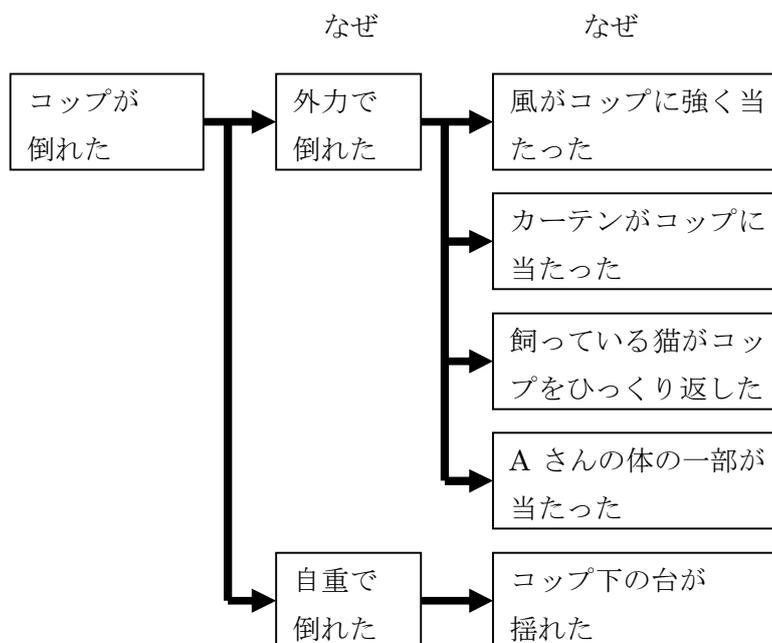
確かに、発生する可能性のある要因を並べるのは良いのですが、その後の検証を考えれば、できるだけ要因の数は絞りたいもの。

もちろん、勉強のためや、様々なパターンを整理するために、あれもこれも入れるのは、一向に構いませんが……。 (慢性的に色々なパターンが発生している場合も少なくないのですが、できればその場合は、「現象」の段階で一つのパターンに絞り込んでおくと良いでしょう)

例えば、以下の例において、もし猫がいないとすれば、猫のことを挙げても意味がありません。

同様に、もし風がなく穏やかだったら、「風がコップに強く当たった」ということを挙げても意味がありません。

これこそ、推論ではなく、空想の世界に入っていってしまいます。



したがって、「なぜなぜ分析」を実施する前にわかる範囲で前提条件を列記しておき、その上で分析を進めていくと良いでしょう。